**参考資料２の児童向け副読本の内容**

児童向け副読本は、平成26年3月に作られており、福岡市総務企画局企画調整部が発行しているもので、全部で26ページから構成されており、A4サイズの冊子で配布されております。

表紙には、みんながやさしいみんないやさしいユニバーサル都市・福岡と中心に書いてあり、下にユニバーサル都市・福岡のロゴマークのおさるさんのマークが記載されてます。

１ページは、目次です。

２ページには、女の子と男の子の２人が並んだイラストがあり、その上に大きな吹き出しと下に説明が書いてあります。吹き出しの内容は「みんなはユニバーサルデザインって知ってる？みんなのまわりには、お年寄り、子ども、男の人、女の人、体が不自由な人、妊婦さん、外国の人など、いろいろな個性を持った人がたくさんいるよね。ユニバーサルデザインは、わたしたちみんなが、ともに楽しく快適にくらせるように、使う人の気持ちになってものをつくったり、しくみをくふうしたり、思いやりの心をかたちにしたりして行動していくことなんだ。これから、わたしたちといっしょにユニバーサルデザインについて学び、みんながくらしやすいまちはどんなものか考えよう。そして、みんながくらす福岡市を、ユニバーサルデザインの考え方で誰もが思いやりを持ち、すべての人にやさしいまち、みんながやさしい、みんなにやさしい「ユニバーサル都市・福岡」にしていこう。」と書いてあります。女の子と男の子のイラストの下には、「わたしたちの名前は「ゆう」と「だい」。ユニバーサルデザイン（UNIVERSAL DESIGN）の頭文字U とD からきているんだ。これからわたしたちといっしょにユニバーサルデザインについて学んでいこう！」と書いてあります。

３ページ、４ページは見開きで１ページです。中心に「ゆう」と「だい」のイラストが描かれていて、二人をぐるりと囲むように周りに、妹と弟、お母さんと赤ちゃん、お父さん、おじいちゃんとおばあちゃん、けがをして松葉杖をついているクラスのお友達、車いすに乗っている人、白い杖を使って歩いている目が不自由な人、旅行で日本に来ている外国の人、お腹に赤ちゃんがいる人、子ども連れの友達のお父さん、といった色々な人のイラストが描かれています。「だい」の横には「わたしたちのまわりにはいろいろな人がいるよ」と話している吹き出しがあり、「ゆう」の横には「みんなのまわりにはどんな人がいるか考えてみてね」と話している吹き出しがあります。

５ページ、６ページは見開きで１ページです。タイトルは「いろいろな人のくらしを体験してみよう」です。説明文には「みんなのまわりにいるいろいろな人のくらしを体験してみよう。体験するとたくさんのことがわかってくるよ。わかったこと、気づいたことを書いてみよう。」と書いてあります。目が不自由な人、車いすに乗っている人、外国の人、の３つの例が左側に書いてあり、右側に自由に気づいたことを書ける空欄があります。

７ページ、８ページは見開きで１ページです。タイトルは「わたしたちのまわりにいる人のことを考えてみよう。いろいろな人のくらしを体験してみよう。」です。説明文には「わたしたちのまわりにいる人たちの姿や行動をよく見てみよう。まわりにいる人たちがどんなことに困っているのか、なぜ困っているのか考えてみよう。」と書いてあります。上半分が事例で、タイトル「おばあちゃんやおじいちゃんのことを考えてみよう」と書いてあり、左から右へ順番に、「気づいたことは何だろう？」「どんなことに困っているんだろう？」「それはなぜ困っているんだろう？」と書いてあります。そして、下半分にタイトル「みんなのまわりにいる人のことを考えてみてね」と書いてあり、同じく、「気づいたことは何だろう？」「どんなことに困っているんだろう？」「それはなぜ困っているんだろう？」といった順番で、自由に書ける空欄があります。

９ページ、10ページは見開きで１ページです。タイトルは「ユニバーサルデザインって何？」です。説明文には「みんなのまわりにいるいろいろな人たちといっしょになって、楽しく快適にくらすために、くふうされたしくみを考えたり思いやりのある行動をしたりすることがユニバーサルデザインなんだ。これまでの学習で、わたしたちのまわりにいる、お年寄り、子ども、体が不自由な人、外国の人、そして友だちなど、みんながいろいろな個性を持っていることがわかったよね。わたしたちみんなが、その人の個性に気づいて、その人の気持ちになってものやしくみをくふうすることや、思いやりの心をかたちにして行動することが、ユニバーサルデザインなんだ。ユニバーサルは日本語で「すべての人に共通の」という意味があって、わたしたちみんなが、くらしやすいまちを考えて、ともに楽しく快適にくらせるようにくふうしたり、行動したりすることはとても大切なんだ。」と書いてあります。また、下半分には、「ユニバーサルデザインを考える」と見出しがあり、左から右に向けて外国の方のイラストとともに「１、いろいろな人がいて個性があることを知ろう(日本語が分からない)」、「２、その人がどんなことに困っているか考えよう(外国語で書いた看板がない)」、「３、なぜ困っているか、その理由を考えよう(看板の日本語が読めない)」、「４、みんなが楽しく快適にくらすためにできることを考えよう(「看板に外国語も書いてあるよ。日本語がわからない外国の人が見ても分かるね」と「声をかけて、道を教えてあげることも大切だね」)」と書いてあります。また、右上のコラム欄には、「くふうされたものやしくみのユニバーサルデザイン」という見出しで「くふうされたものやしくみのユニバーサルデザインには、お年寄りや子ども、体が不自由な人など、誰もが楽に移動できるエレベーター、耳の不自由な人がテレビを見やすいように、音や声を文字で表示する文字放送、外国の人でもわかる外国語で書かれた看板などがあるよ。“みんなにやさしい”ものやしくみがユニバーサルデザインだね。」と書いてあります。また、「思いやりのある行動のユニバーサルデザイン」という見出しで「みんながすぐにできるユニバーサルデザインに、思いやりのある行動をするということがあるよ。例えば、道に迷った人に声をかけて教えてあげたり、重たい荷物を持ったお年寄りには声をかけて持ってあげたりするといいね。“みんながやさしい”気持ちになることもユニバーサルデザインだね」と書いてあります。

11ページから16ページは、折り込みで全面にまちのイラストが描いてあり、タイトルとして「みんなのまわりにあるユニバーサルデザインをさがしてみよう！」と書いてあり、「ゆう」のイラストの横に「どこにユニバーサルデザインがあるんだろう。」と吹き出しが書いてあり、「だい」のイラストの横に「みんなはいくつ見つけられるかな？」と吹き出しが書いてあります。折り込みを左右に開くと、避難所看板、まごころ駐車場や点字ブロックなど、様々なまちのなかのユニバーサルデザインのある写真が載っており、それぞれに説明が書いてあります。

1７ページ、1８ページは見開きで１ページです。タイトルは「みんなもユニバーサルデザインを考えてみよう」です。説明文には「ここでは、みんなのまわりにいる人を選んでその人の気持ちになって、ものやしくみをくふうしたり、思いやりの心をかたちにして行動したりすることを考えてみよう。」と書いてあります。左から右にかけて、「１、いろいろな人がいて個性があることを知ろう」、「２、その人がどんなことに困っているか考えよう」、「３、なぜ困っているか、その理由を考えよう」、「４、みんなが楽しく快適にくらすためにできることを考えよう」と４つ順番で書いてあり、それぞれ自由に書き込める欄が２つあります。

19ページ、20ページは見開きで１ページです。タイトルは「みんながくらしているまちのユニバーサルデザインを見つけよう」です。説明文には「みんながくらしているまちには、どんなユニバーサルデザインがあるか探してみよう。」と書いてあります。また19ページ目には、ページの中心に文字で「みんながくらしているまちにはどんなユニバーサルデザインがあるかな。家や学校、いつも通っている通学路やいつも行くお店でくふうされたものやしくみを探してみよう。また、思いやりのある行動をしている人を見かけたことはないかな。まちに出て、いろいろな人の行動を観察してみよう。」と書いてあり、その周囲に、妊婦に電車の席を譲る少年のイラストや年配女性の代わりに重そうな荷物を持ってあげる少年などのイラストが描かれています。20ページ目は全体が自由に書き込める欄になっています。

21ページ、22ページは見開きで１ページです。タイトルは「ユニバーサル都市・福岡をめざして」です。説明文には「みんながやさしい、みんなにやさしい福岡のまちはくふうされたものやしくみとみんなの思いやりのある行動でつくられるんだ。」と書いてあります。また、21ページの中央部分には、「ユニバーサル都市・福岡って何？」という見出しで「わたしたちのまちには、みんなが楽しく快適にくらすためのユニバーサルデザインがたくさんあることがわかったよね。みんなの家や学校、いつも通っている通学路など、まちの中で楽しく快適にくらすためのものやしくみをくふうすることが「みんなにやさしいまち」をつくり、わたしたち一人ひとりの思いやりの心をかたちにして行動することが「みんながやさしいまち」をつくっていくよ。「ユニバーサル都市・福岡」は、みんながくらすこの福岡のまちを、くふうされたものやしくみ、そして思いやりのある行動でいっぱいにしていくことをめざしているんだ。わたしたちのまちには、みんなが楽しく快適にくらすためのユニバーサルデザインがたくさんあることがわかったよね。みんなの家や学校、いつも通っている通学路など、まちの中で楽しく快適にくらすためのものやしくみをくふうすることが「みんなにやさしいまち」をつくり、わたしたち一人ひとりの思いやりの心をかたちにして行動することが「みんながやさしいまち」をつくっていくよ。「ユニバーサル都市・福岡」は、みんながくらすこの福岡のまちを、くふうされたものやしくみ、そして思いやりのある行動でいっぱいにしていくことをめざしているんだ。」と書いてあります。その下には、イラストで福岡タワーなどのイラストが描いてあります。そして、22ページの上半分には、見出しとして「「ユニバーサル都市・福岡」をめざしていくために、わたしたちができることを考えてみよう。」と書いてあり、自由に書き込める欄があります。下半分には、「この笑顔のサルのマークを知っていますか？これは、「ユニバーサル都市・福岡」のマークです。みんなに親しみやすく、覚えてもらいやすいサルの顔の中に、「人」の字があって、それを「ハート」で囲むことで、人がやさしさや思いやりに包まれている様子をあらわしています。また、サルの笑顔は、みんなにとってくらしやすいまちを、みんなが笑顔で語り合う様子をあらわしています。みんなでいっしょに、この福岡市を、誰もが笑顔でくらせるまちにしていきましょう。福岡市長髙島宗一郎」といった市長のコメントと「ユニバーサル都市・福岡」のおさるのロゴが書いてあります。

23ページから最後の26ページにかけては、「さまざまなユニバーサルデザイン」を紹介しています。

23ページにおいては、「使いやすいユニバーサルデザイン」という見出しで、ペットボトル、大きなスイッチ、使いやすい自動販売機、自動ドア、使いやすい券売機、エレベーターのボタン、といった６つの事例をあげて、それぞれ写真と説明文を載せています。

24ページにおいては、「どこでも自由に出かけやすいユニバーサルデザイン」という見出しで、ノンステップバス、広い改札口、受付カウンター、多目的トイレ、窓口での伝える工夫、盲導犬用トイレ、といった６つの事例をあげて、それぞれ写真と説明文を載せています。

25ページにおいては、「安全・安心なユニバーサルデザイン」という見出しで、音の出る信号機、自転車の道、ベンチのあるバス停、安心して乗れる工夫、手すり、安全な押しピン、といった６つの事例をあげて、それぞれ写真と説明文を載せています。

26ページにおいては、「わかりやすい！これもユニバーサルデザイン！」という見出しで、携帯電話、風呂敷、といった２つの事例をあげて、それぞれ写真と説明文を載せています。また、「障害のある人もない人もいっしょに」といったタイトルで「いろんな人が個性を持っていっしょにくらしていけるまち。それもユニバーサルデザインだね。障がいのある人が作った商品のコンクールを行ったり、障がいのある人とキャンプで交流したり、いろいろなことが行われているよ。」といった説明が書いてあります。また、その下にコラムの欄があり、「みんなはこのマークを見たことがある？」といったタイトルで車いすのピクトグラムが載っており、「これはピクトグラム（絵文字）といって、絵を見れば誰にでも伝えたいことがわかるようくふうされたものなんだ。このマークは、障がいのある人が使うことができるものをはっきりと知らせるためのマークで、このマークのあるエレベーターやトイレを見かけたらマナーを守って使おうね。」といった説明が書いてあります。さらに、その下には「みんなはこのマークを知ってる？」といったタイトルで、オストメイトマークとハートプラスマークのイラストが描いてあり、「上のマークは「オストメイトマーク」といって、人工のぼうこうなどを体のなかに着けている人のためのものがあることを知らせるマークだよ。下のマークは「ハートプラスマーク」といって、心臓や呼吸器など体のなかに障がいのある人を知らせるマークだよ。障がいのあることが外からはわかりにくいので、バスの中などでこのマークを身に着けている人を見かけたら席をゆずらないとね」といった説明文が書いてあります。

背表紙には、「ご家族の皆様へ」といったタイトルで、「この本は、福岡市が進めているユニバーサルデザインやユニバーサル都市・福岡の考え方を小学生向けの学習資料としてわかりやすく編集したものです。この本が、授業の中だけでなく、ご家庭や地域などでも活用され、みんながやさしい、みんなにやさしい「ユニバーサル都市・福岡」への理解を深めていただければ幸いです」といった結び書きが書かれております。

児童向け副読本の中身は以上となります。